

サイバー・キャンパス・コンソーシアム  
平成24年度 第1回看護学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年6月30日（土）14：00～16：00

場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者： 宮本委員、仲井委員、石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端、森下、平田）

III. 検討内容

今回は看護学教育における教育改善モデルを実現するための教育力のうち、看護学教員に期待される学識について以下のとおり検討した（※のちに「学識」から「専門性」に全委員会で統一）。

まず事務局より、教育力をまとめるに至った背景や方針について説明があり、それに沿う形で具体的な事例を踏まえて意見の交換を行った。

看護学分野の教育改善モデルをより説得力のあるものとするため、教育の改善以外に教員自身の努力についてどのように行っていくべきかについても検討することにしており、看護学分野の教員の教育力として、「看護学教員に期待される学識」と「教育改善モデル実現に求められる教育力」の2つについて文章化することとしている。看護学教員に期待される学識については、一般に看護学教員に求められる教育力と位置づける。

次に、他分野でまとめた教育力を参考にしながら、看護学教員に期待される学識について検討した。

1. 看護学教員に期待される学識（専門性）について

看護学では、豊かな人間性、生命の尊厳に対する敬虔な態度、健康を守るという責任感などの育成に加えて、生活を守るという点が必要であること、また、専門学校との相違を考えると、大学の教員としては使命感や倫理観も踏まえておくことが重要であること、他職種と連携しながら専門知識を適用していく調整能力が必要であることを確認した。その他に、看護の専門家として学生一人ひとりに対応して教育していくために、教員がロールモデルとなることが重要な課題となる。このような視点から、以下の通りまとめた。

【1】看護学教員に期待される専門性

- ① 豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康および生活を守る看護に携わる専門家の育成に強い使命感を有していること。
- ② 看護学の専門知識を他職種と連携しながら、個人・集団・地域に適用することの価値を認識していること。
- ③ 他分野の多様な領域と看護学との学際的な関連づけができ、新たな課題の発見、科学的根拠に基づいた探究ができること。
- ④ 学内外の人的・物的・情報資源を活用して教育のマネジメントができること。
- ⑤ 保健医療に対応できる看護学教育へのニーズが世界および地域で時代とともに変化していることを認識していること。
- ⑥ 学生のロールモデルとなることを認識し、学生の主体的な成長を支えられること。
- ⑦ ICTなどを利用した教育技法を駆使して、参加・対話・実践型の教育を実践できること。

2. 次回委員会

次回は、8月8日（水）14：00より開催し、2つの教育力「看護学の授業改善モデルを実現するための教育力」について検討することを確認した。